

令和6年度 第7回 政策調整会議 会議録

◆開催日時：令和6年11月12日（火） 9：55～10：32

◆開催場所：第1委員会室

◆出席委員：波積副市長、岸副市長、大下教育長、西川総合政策部長、谷口総務部長、
寺本財務部長、山本保健部長

◆説明者：長谷川健康推進課長、小山保健推進担当長

◆審議事項

第2次岸和田市のいのち支える自殺対策計画の策定について・・・・・・・・健康推進課⇒承認

◆審議概要

◎付議依頼書等に基づき説明

◎説明後、質疑応答

〈波積副市長〉岸和田市の良いところは町会を含め、元気な市民がいて、人のつながりが全国の市町村と比べても圧倒的にしっかりしているところだと思う。そういう視点で概要版（案）1頁の自殺死亡率に関するグラフを見ると、しっかりとした繋がりがあるだけに、コロナ禍の時に、触れ合うことができなかったことが良くなかったのかなと改めて感じる。

自殺対策計画がしっかり機能しているというのはあると思うが、コロナ禍が明けくると自殺者も減ってきている。やはり岸和田の人はみんなで直接触れ合い、お互いにお互いを気遣って、結果的にうまく自殺者を減らしているのかなと感じた。

今回の計画の重点施策については、厚労省でもきめ細やかな指示をしているようで、それぞれの市町村ごとに原因を分析し、岸和田市ではこのような順番ではないですかというようなところまで示してきているようだ。岸和田市の性格を見極めたアドバイスももらっての計画なので、いい計画に仕上がったと思う。これから実際に効果を積み重ねて自殺者数を減らしていただきたい。

知人にも自殺で亡くなった人がいる。そのことで傷つくのは、もちろん家族もそうだが、親友など周りの人も本当に傷つく。そういう意味でも、1人でも自殺者を減らすことが大事だと改めて感じた。

〈岸副市長〉概要版（案）の施策の概要のところ、変更をしたという説明があったが、それ以外に現行の計画から見直した点があれば教えてほしい。

〈健康推進課長〉大きく2点ある。1点は先ほど説明した「子どものうちにSOSを発信できるための教育の推進」を基本施策から重点施策に変更したこと。

もう1点は評価指標を設定したこと。素案でいうと、例えば46頁などにあるように、評価指標を設定した。計画の目指すべきところは基本理念にもあるとおり、誰も自殺に追い込まれない社会の実現であるが、自殺死亡率や自殺者数の増減というのは社会情勢に影響を受けやすいという面がある。そこで、行政としての取組状況を評価する

ために、主な施策ごとに評価指標を設定し、これを目安として達成度を見極めようという仕組みを取り入れている。

〈岸 副 市 長〉概要版（案）の計画の期間のところに「法律の改正や社会情勢の動向によって必要な場合は計画を変更する」とあるが、何か変更するための判断基準を設けているか。

〈健康推進課長〉計画の見直しについては、基本的には法改正に伴うものを想定している。その他、社会情勢の変化に合わせて国が自殺総合対策大綱を緊急に見直すようなことがあった場合には、それに合わせて見直しを行う必要も生じると考える。

〈岸 副 市 長〉法が変わらなければ5年に1回しか見直さない形になっているので、例えば、急に自殺者数が増えたというのがわかった時点などで変更などの判断をするのも1つかなと思う。

〈健康推進課長〉別途、本部員となっていて「岸和田市のいのちを支える自殺対策推進本部」において毎年の現状報告及び取組状況を報告させていただく中で、調整を繰り返しながら実情に即した取組を進めていきたい。

〈教 育 長〉原因分析から始まり、岸和田の現状を見据えた上で体系的に施策・事業を整理しており、大変わかりやすい計画になっている。

事前に示されている、自殺死亡率や自殺者数についてはあくまでも当面の目標であり、当然の目標はゼロである、ということを強調してほしいと伝えていたが、先ほどそのように説明されていて大変良かった。

よくニュースで聞くのは、自殺防止のための「いのちの電話」などで、10件電話がかかってくるうちの1、2件しか取れないという人材不足の状況や、相談員が高齢化して夜間対応ができなくなるという状況。逆にそういう悩みを持つ人は夜間に電話することが多いと考えられるので、相談機能の充実は非常に重要であると感じる。

そうした中で、ゲートキーパー研修はぜひ広めていただき、市の職員全員がゲートキーパーになれるような取組が必要ではないかと思う。

「いのちと暮らしの相談会」では専門家も入って相談を受けていただいている。これも非常に有効ではあるが、相談できるだけの気力のある人はまだ自殺には至りにくいのではないかと。相談もできず、自分で抱え込んで思い詰めている人の自殺のリスクが高いというふう思う。そういう人たちに対するアウトリーチについて事業や計画していることなどあるか。

〈健康推進課長〉難しい問題ではある。保健所や各相談機関とも連携を深めていながら情報共有して計画を進めているが、そうした中で保健所を通じて大阪府などの取組を伺うと、足を運ぶことが難しい場合はネットを通じて相談できる、というような取組などを広げている。岸和田市としてもそういう取組があることを紹介しつつ、足を運んで実際に相談していただける場も提供し、家族や周りの人が相談に来て、それを本人へ還元していけるという場も継続して保障していきたいと思う。

〈教 育 長〉市の職員が様々な相談を受ける中で自殺の兆候を感じ取り、適切に専門機関に繋いでいくというゲートキーパーの役割、それも一部アウトリーチ的な意味合いがある。あわせて、話を聞いてなるほどと思ったのがSNS、ネットの活用。自殺で亡くなる方は自殺についていろいろ検索するので、そこで自殺に関するキーワードに触れた時に自殺防止の情報が入ってくる、あるいは相談機関の情報が入ってくるというのは非常に重要。本市でもそういう取組をしていただけたらと思う。

- 〈財 務 部 長〉計画の推進体制の中で触れている、「岸和田市いのちをつなぐ絆ネットワーク会議」は、具体的にどういうふうな機関や団体で構成されているか。
- 〈健康推進課長〉素案資料編の 73・74 頁に記載のある、本市の関係課 18 課と、三師会、警察、子ども家庭センター、保健所、民児協、社協、各包括支援センター、障害福祉の各委託相談支援事業所などで構成されている。
- 〈財 務 部 長〉府も同じように対策・計画を作っていると聞いている。「市は市、府は府」というようなことをしていると何の意味もないので、どこまで連携ができていいのか気になっていたが、問題なく連携は取れているということがわかった。
- 素案の 11 頁、原因・動機別自殺者数のところで、自殺される方の理由・原因については健康問題が一番多いということだ。例えばどんな病気を苦しめてとか、体の病気、心の病気など、そのあたりの内容は把握しているか。
- 〈健康推進課長〉高齢になればなるほど健康問題を理由にして自殺に至る方が増えていることから、体力の衰えに加えて加齢による体調不良などが考えられるが、発症して、最終的には気持ちもちが塞ぐというところにリンクされ、自身の命を絶つまでに至る、というふうになっているのではないかと考えられる。
- 〈財 務 部 長〉「病気がしんどい」「これ以上苦しむのは嫌だ」ということが自殺の原因になっているかと思う。自殺を回避できたとしても、「しんどい」「苦しい」という部分は残っていく。そこをどうしていくのかというところが、先ほど尋ねた関係機関等との連携に関わる部分だと思う。従前から取組は一緒にされていると思うが、詳細がわかるほど対応策というのも見え易くなるはず。そのあたりで何かできることがあれば良いと思う。
- 2 番目に多い理由・原因の経済、生活問題では、おそらく借金などで立ち行かなくなり、逃げ出したいというところから来るものかと思う。素案資料編にも概要版（案）にも、相談に関する事業の記載があり、借金問題なら弁護士に対応してもらえたりするのだろうと思うが、実際にどれぐらいの人がこれをご存じで、どれぐらい相談されているのかを把握しているか。
- 〈健康推進課長〉周知に関しては、リーフレットやカードに相談機関を掲載して、気軽に手に取れるように、窓口に置いている。ただ、それを持って相談に行ったかどうかまでの追跡はできていない。
- 〈財 務 部 長〉例えばこのカードを手にして、相談をなさったときに、相談を受けた医師や弁護士などから、ご相談があったことなどのご連絡などはないのか。
- 〈健康推進課長〉守秘義務にも関わる部分になるので、なかなか難しい。
- 〈財 務 部 長〉プライバシーの問題は当然として、相談内容の類型化が一定できるぐらいの母数の報告を受けられれば、また対応策というのも考えられるのではないか。
- 自殺を回避できたとしても根本的な原因の解決にならなければ、その人たちはまた自殺の予備軍になっていくのではと思う。ここでは計画というものの性質上、総論的な話になっているが、現実苦しんでいる方の声を市としてつかめるようなものがあれば、具体的な個別の事案が見えてくることで、様々な解決策も考えられるのではないか。今後この計画を進めていく上で、そのあたりも検討してもらえたらと思う。
- 〈健康推進課長〉いのちをつなぐ絆ネットワーク会議の出席者を通じて、そうしたご報告をもらえるような取組もしていけたらと思う。

〈総務部長〉今回、重点施策に新たに子どもに対する教育を位置付けたのは非常に良いことだと思う。若年層への対策としてはもちろん、子どもは将来労働者にもなるし、最後は高齢者にもなる。我々が子どもの頃にはこういう話はおそらくなかったのではないかと思う。今の子どもに対してしっかり教育啓発するということは、将来の対策にも繋がるのではないか。そういう意味でもぜひ、重点施策として進めてほしい。

加えて、自殺対策という分野に関しては継続することに意味がある取組もたくさんある。目立たない取組であっても、第1次からしっかり引き続いて進めてほしい。

〈総合政策部長〉もともとこの市の計画も大きくは国の計画に基づいたものになっていると思う。波積副市長からもお話があったように、厚労省からも、岸和田市の特質を見極め、きめ細かい対応がなされていると思うが、岸和田市独自のことが記載されているのはどういったところか。

〈健康推進課長〉岸和田市の現状・課題の分析は、素案5頁から始まる第2章の中で、岸和田市の実際の数字に基づいて行っている。施策を進めていくにあたっては、各頁に評価指標を含め、各課が行う事業の取組が掲載されているが、これが実際の岸和田市での取り組みということになる。

〈総合政策部長〉概要版（案）の自殺死亡率の推移のグラフについて、国や府に比べて少々岸和田市のデータが乱高下するように見えるのはなぜか。

〈健康推進課長〉自殺死亡率は、人口10万人あたりの数で算出しているので、人口規模が国から府、府から市と小さくなればなるほど、おひとりの方の命がポイントに大きく影響し、上下することになる。

〈総合政策部長〉こういった計画を立てるにあたり、自殺を考えたこともない人ばかりが集まって作っても良い計画はできないと思う。相手の気持ちのわかる人が集まって、計画を作って、進めていていただきたいと思う。

例えば、「頑張らなくていい」と言われても、「でも頑張らなきゃ駄目だ」と思ってしまう人は自殺に向かう確率が高いと思うので、そういう人に対しては、「頑張りすぎなくていい」という声のかけ方ができればと思うところ。相談できる先、話を聞いてくれる人の存在というのが非常に重要になるが、「自殺相談」などという看板を掲げると非常にハードルが高くなってしまうので、ハードルを低くして、みんなが越えやすいような相談体制を考えてもらえたらと思う。

原案のとおり政策決定会議に諮ることとしてよいか。

【異議なし】

⇒本件、原案のとおり承認し、政策決定会議に付議する。

令和6年 10 月 28 日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 保健部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	第2次岸和田市いのち支える自殺対策計画の策定について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	岸和田市いのち支える自殺対策計画(令和2年度～6年度)では「誰も自殺に追い込まれることのない『生き心地の良い社会』の実現」を基本理念として、自殺対策施策を推進してきました。 現行の計画が令和6年度で最終年度を迎えることから、次期第2次岸和田市いのち支える自殺対策計画(素案)をまとめました。 令和7年度から始まる「第2次岸和田市いのち支える自殺対策計画」(素案)についてご審議をお願いします。
説明者 (部長は説明者に含まない。)	保健部健康推進課長 長谷川 保健部健康推進課保健推進担当 小山
付議事項の概要	様式別紙に記載

別紙

付議会議	令和6年度 第7回会議
付議事項	第2次岸和田市いのちを支える自殺対策計画の策定について

★取組の目的

対象	市民、事業者、行政
どのような状態を目指す	誰も自殺に追い込まれることのない「生き心地の良い社会」の実現を目指します。

★総合計画上の位置付け

2010102	基本目標	健康で自分らしく生きられるまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	健康意識の向上とともに、介護予防が進められ、心身の健康が維持・増進している
	個別目標の方向性	① 健康意識の向上や重症化予防など疾病予防を進める
	行政の役割	薬物防止や自殺予防など心の健康管理を支援する

★現状と課題

高齢者・働く世代・男性の自殺者が多くを占める、自殺者の約7割が同居人がいる世帯である、大阪府内で子どもや若者世代の自殺未遂者が増加している、という現状にあって、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、第1次計画の目標が達成されていない。自殺の動機には社会情勢を含め様々な要因が複雑に絡みあっているため、目標達成までの取り組みは容易ではないが、全市的かつ計画的に対策を進めていく必要がある。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項		決算(見込額)		予算額	見込額				
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
岸和田市いのちを支える自殺対策計画進捗管理		340	331	570					
第2次岸和田市いのちを支える自殺対策計画策定				3,427					
第2次岸和田市いのちを支える自殺対策計画進捗管理					600	600	600	600	600
第3次岸和田市いのちを支える自殺対策計画策定									5,000
財源内訳	国費								
	府費	160	155	1,999	317	317	317	317	2,817
	起債								
	一般財源	180	176	1,998	283	283	283	283	2,783
	その他								
事業費		計			R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
		8,000			600	600	600	600	5,600

★当該事項に関連する人員増の必要性※

人員増の必要性		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
有	無					

★取組の効果を表す指標

指標名		単位	目標値							
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
①	自殺者数 (5年平均)	人	34.2人 (実績)	R5年～R9年平均 32.2人未満						
②	自殺死亡率 (人口10万人対) (5年平均)	—	17.63 (実績)	R5年～R9年平均 16.1未満						

※事業費及び人員を確約するものではない。